

2022年4月10日 大井バプテスト教会 礼拝説教

説教題「KYなイエスさま」 マルコによる福音書 14章 3～9節 広木 愛

『イエスは言われた。「するままにさせておきなさい。なぜ、この人を困らせるのか。わたしに良いことをしてくれたのだ。7: 貧しい人々はいつもあなたがたと一緒にいるから、したいときに良いことをしてやれる。しかし、わたしはいつも一緒にいるわけではない。8: この人はできるかぎりのことをした。つまり、前もってわたしの体に香油を注ぎ、埋葬の準備をしてくれた。9: はっきり言うておく。世界中どこでも、福音が宣べ伝えられる所では、この人のしたことも記念として語り伝えられるだろう。』
マルコ 14・6～9(一部抜粋)

イエスさまの姿を見ていると、十年以上前の新語・流行語に選ばれた「KY」という言葉が浮かんできます。このKYという言葉調べてみると、「空気が読めない、空気を読めよ！」という意味が有名になりましたが、「危険予知」の略語でもあるようです。

聖書には意外と空気を読めないKYな人がたくさん出てきます。今日の香油をイエスさまのために持ってきたこの女性も、弟子たちの反応をみると、まさにKYな行動をした一人かもしれません。

イエスさまのお誕生の際にも、マリアの状況を考えずに急に表れる天使や、民衆が楽しそうにイエスさまのお話をきいている中で茶々をいれる人たちがいましたが、見方によっては、KYです。空気が読めないKYに加えて、自分たちの教えてきたこと大切にされていないという「危険予知」のKYも加わっているように思います。

聖書の中のKYの一番は、イエスさまではないでしょうか。いちゃもんをつけてくる人がいることはわかっているはずなのに、弟子を含めた周りの反応よりも、神さまの言葉を伝えることに集中している姿は、私には到底マネできないことです。

集団心理に負けることなく、神さまの働きに焦点を置いてその働きを最後まで続けたイエスさまのその姿勢を、今の私には無理でも、少しずつついただきたい、見習いたいと思わされます。

どうしても、「まあ、こんなことだから、別に神さまに忠実よりも、この場を収めるためには、神さまはちょっと横において、作業効率のみよければいいや。」とか、「日本という天皇父権制の文化圏内にいるのだから、そこは、神さまのルールと、日本の特性、便利な方を使えばいいや。」と都合の良い選択に流れてしまう自分がいます。

様々な場面で都合のよいどちらかを選ぶことはできる。でも、世の流れに飲み込まれなかったイエスさまを私は主と告白すると神さまと教会にバプテスマを受けたときに約束したと思うと、どっちを選んでもいい・・・ではなく、神さまへの忠実さの中で、この世での仕事に忠実に仕えていくことが今与えられている選択方法なのかなあと思います。

ベタニアに滞在していたイエスさまにナルドの香油をおささげしたこの女性は、彼女にとって、神さまから示された最大の良いものを持ってきたのだらうと思います。5節を見ると、「この香油は300デナリオン以上」で売れるほど効果なものだったと書かれています。デナリオンは、一日の労働賃金、私たちの年収と読み替えてもいいのかもしれませんが。それだけの価値があるものをイエスさまにおささげする。イエスさまがお泊りになっていた場所は、重い皮膚病を患ったシモンという人の家です。「こんな高価なものを買うくらいなら、シモンさんのために、何か別のものを買ってあげればいいのに・・・」と思う人もいたのかもしれないし、「今食事に困っている人がいるのに、なぜその人たちのために使わないのか！」という弟子たちの言葉は正しいのかもしれませんが。

香油を持ってきた女性もその正論はわかっていたのかもしれない。でも、このお金の使い方の選択肢がある中で、彼女が選び取ったものは、イエスさまへのささげものでした。その選択をイエスさまは、「するまますせておきなさい・・・わたしによい事をしてくれたのだ」と受け取られました。イエスさまはご自身のKYに見える行動が、どれだけ反感を買っているのか、そこは承知して、KY、「危険予知」をしていたのかもしれませんが。危険予知できたとしても、それを回避するために、その場を去ったイエスさまは記されていても、神さまからのメッセージを曲げることはなさらなかった。神さまに託されたイエスさまの働きを、忠実に貫き通すこと。それをイエスさまはきっと選び取られたのだらうと思います。

KYなイエスさま、そしてその周りにはいろんなKYな人たちがいた。でも、そのKYな出来事が、わたしたちの聖書にはたくさん書かれています。そのKYとも思える言葉に私たちは生きる力をもらい、励まされているのではないのでしょうか。

イエスさまのKYの終着点は、十字架でした。イエスさまは、危険予知はできなかったのではなく、しなかったのかもしれないし、わざと集団が作り出す空気は読まなかったのかもしれませんが。そのイエスさまの受難の歩みを、特に心にとめて、この時を共に過ごしたいと願います。イエスさまの空気を一緒に分かち合い、「空気の読めない」ではなく、神さまの空気を読むことができるK（神さまの空気）Y（読む）な私たちが過していければと思います。